

早稲田大学 第一文学部 漢文 講評

〔総合分析〕

<p>試験時間</p> <p>国語 90 分（現代文 2 問 古文 1 問 漢文 1 問）</p> <p>出典</p> <p>『荀子（じゅんし）』 堯問篇 第三十二</p> <p>解題</p> <p>周の荀況の撰。もと『孫卿新書』といった・勸学・礼論・性悪の 3 篇がその中心。学の必要、礼儀の尊尚すべきことを述べ、性悪の説を唱える。</p> <p>出題の本文の要旨は、君主一人が群臣より優れているのは国の不幸であるという呉起の話。荀況(じゅんきょう)…生没年不詳。戦国、趙の人。</p>

〔大問別講評〕

大問番号	設問番号	コメント	難易度
四	問二十二	<p>〈解釈〉</p> <p>白文の解釈で些か難解。「幾」を「ちかき」と訓読するのは難しい。また「乎」は文末にあって「か」と読み、疑問を表すが、選択肢は明らかな疑問に訳していない点は選択に迷うところ。荘王の憂色を示していた理由を読み取る巨視的な視点が必要。</p>	標準
	問二十三	<p>〈空欄補入〉</p> <p>会話の構造をとらえ、武侯と荘王の関係を混乱させずに把握する読解力が必要。D は「君」が武侯であることを読み取れるかがポイント。</p>	標準
	問二十四	<p>〈人物特定〉</p> <p>この設問も会話の構造を把握し、傍線部の前の、「武侯逡巡、」から地の文に戻り、「天使」以下が武侯の発話である点を踏まえる。「夫子」は二人称の代名詞であることは基本。</p>	標準
	問二十五	<p>〈内容把握〉</p> <p>本文を全体としてとらえる読解力が必要な設問。やはり会話の構造と例話をとらえ、呉起の教示した荘王の話の中で、なぜ荘王が憂色を示して心配したのかを理解できたかがポイント。</p>	標準

〔総合コメント〕

難易度

標準。昨年と同じレベル。

分量

昨年に比べ増加。昨年の出題が凡そ 130 字でいくぶん短い本文であったので、昨年に比べると増加したことになるが、第一文学部の漢文の出題としては標準の分量。設問数は 4 問で変動なし。

出典

毎年、数校の大学で出題されているが、頻度の高いものとは言えない。出典箇所の出題も殆どない。かぎ括弧が付けられていないので、挿話の構造を捉えて、魏ノ武侯と呉起の示した楚ノ荘王の例話とを混乱させずに把握できるかがポイントとなるが、平素漢文の読解になれていれば内容の把握はさほど難解とは言えないであろう。

形式

傍線部の解釈・空欄補入・人物の把握・内容の把握の 4 問共に昨年の出題形式をほぼ踏襲した。漢文の出題形式としても一般的なもの。